

2020年度春セメスター 4回生演習(学部ゼミ)の履修申請について

4回生演習は、3回生までに蓄積した知識や技法を最大限に生かし、4年間の学習の集大成となる卒業論文を執筆するための科目です。学生自身がもっとも興味・関心のあるテーマについて1年間をかけて研究を行い、後半セメスターでは卒業論文等の最終成果物を作製します。

1. 履修の流れ

前半セメスターに「卒業研究」(2単位)、または、「卒業研究I」(2単位)を履修し、P(合格)評価を与えられた学生は後半セメスターに「卒業論文」(4単位)、または、「卒業研究II」(4単位)が登録されます。「卒業研究」/「卒業研究I」がF(不合格)評価の場合は「卒業論文」/「卒業研究II」を履修することができません。



※第8・9セメスター(必ず1年間)などの組み合わせで履修することも可能です。

※4回生演習の科目名について、2017年度カリキュラムより、APS学生の場合は「卒業研究I」と「卒業研究II」

2. スケジュール

履修開始セメスターのひとつ前のセメスターで申請を行う必要があります。

実施概要	実施期間
ゼミガイダンス / ゼミクラス・シラバス発表	2019年10月30日(水) 14:00～ ※ガイダンスには原則参加して下さい。
指導教員とのゼミ相談期間	2019年10月31日(木)～12月3(火) ※各教員のシラバス内「ゼミ相談時間」の指示に従ってください。
申請期間	2019年12月4日(水)～12月18日(水) 16:30:00 (日本標準時) ※manabaを使ったオンライン申請です。 ※締め切り後の申請は一切受理しません。
申請結果発表	2020年1月29日(水) 15:00
履修開始時期	2020年 春セメスター

※いかなる事情があっても締め切り後の申請は一切受理しません。

3. 対象

4回生演習への新規申請が可能な学生は以下の通りです。

- ①現在演習を履修していない学生
- ②現在のセメスターとは異なる教員のゼミを次セメスターに希望する学生
→現在のゼミをキャンセルした上で新しいゼミに申請して下さい。
- ③現在留学中で、次セメスターにAPUでの学修を再開予定の学生

④現在休学中で、次セメスターに復学予定の学生

日本語基準学生(英語スタンダードトラック)が英語開講の3回生・4回生演習科目を履修する場合は、申請時に英語中級A・Bの単位修得をしている必要があります。ただし、両言語開講(E/J)の演習科目を履修する場合や、復学・再入学により2011年度カリキュラムに変更された学生は、この条件は当てはまりません。

※なお、以下の学生は、別の申請期間「2020年1月29日(水)～2月12日(水)」に申請する必要がありますのでご注意ください。

- ① 再入学予定
- ② 編転入生
- ③ RU、また海外からの交換留学生

4. 注意事項

(1)申請可能クラスについて

4回生演習は、自学部で開講されるクラスのみを履修することができます。

(2)成績・単位数等について

①4回生演習で修得した単位数の集計分野

4回生演習で修得した単位は、専門教育科目分野に集計されます。

②日本語基準国内学生の卒業に必要な要件について

日本語基準国内学生は、卒業するために英語で開講される共通教養科目もしくは専門教育科目を20単位以上修得する必要があります。両言語開講(E/J)の3・4回生演習科目で修得した単位数は、英語開講科目として集計されませんので注意してください。

③学位記への分野名称記載について

(2011年度カリキュラム学生)

国際経営学部学生が各学修分野に配置された科目、コア科目、演習科目から30単位以上修得した場合、学位記に当該分野名称が記載されます(「学部履修ハンドブック172ページ」参照)。どの分野の3・4回生演習科目を履修した場合でも、全ての学修分野に単位がカウントされます。なお、**アジア太平洋学部については、演習科目の単位はいずれの学習分野にもカウントされません。**

(2017年度カリキュラム学生)

国際経営学部の各学修分野に配置された科目から12単位以上修得した場合、履修した当該分野の名称が学位記へ記載されます。(「学部履修ハンドブック53ページ」参照)

アジア太平洋学部では、自身の登録した学習分野の必修科目を2単位以上、および当該学習分野の専門教育科目を28単位修得すると、当該学習分野の名称が学位記に記載されます。(「学部履修ハンドブック35ページ」参照)

国際経営学部学生、アジア太平洋学部学生ともに、自学部のどの分野の3・4回生演習を履修した場合でも、全ての学修分野に単位がカウントされます。なお、国際経営学部は4単位までが学修分野に含まれますが、それ以上は学修分野に含まれません。

(3)ゼミの継続履修、キャンセルおよび変更について

一度履修が許可されると、前半セメスターに「卒業研究」(2単位)が自動で登録されます。「卒業研究」でP(合格)評価を与えられた学生は後半セメスターに「卒業論文」(4単位)が自動で登録されます。「卒業研究」がF(不合格)評価の場合は「卒業論文」を履修することができません。「卒業研究」は、**履修登録A期間、B期間、**

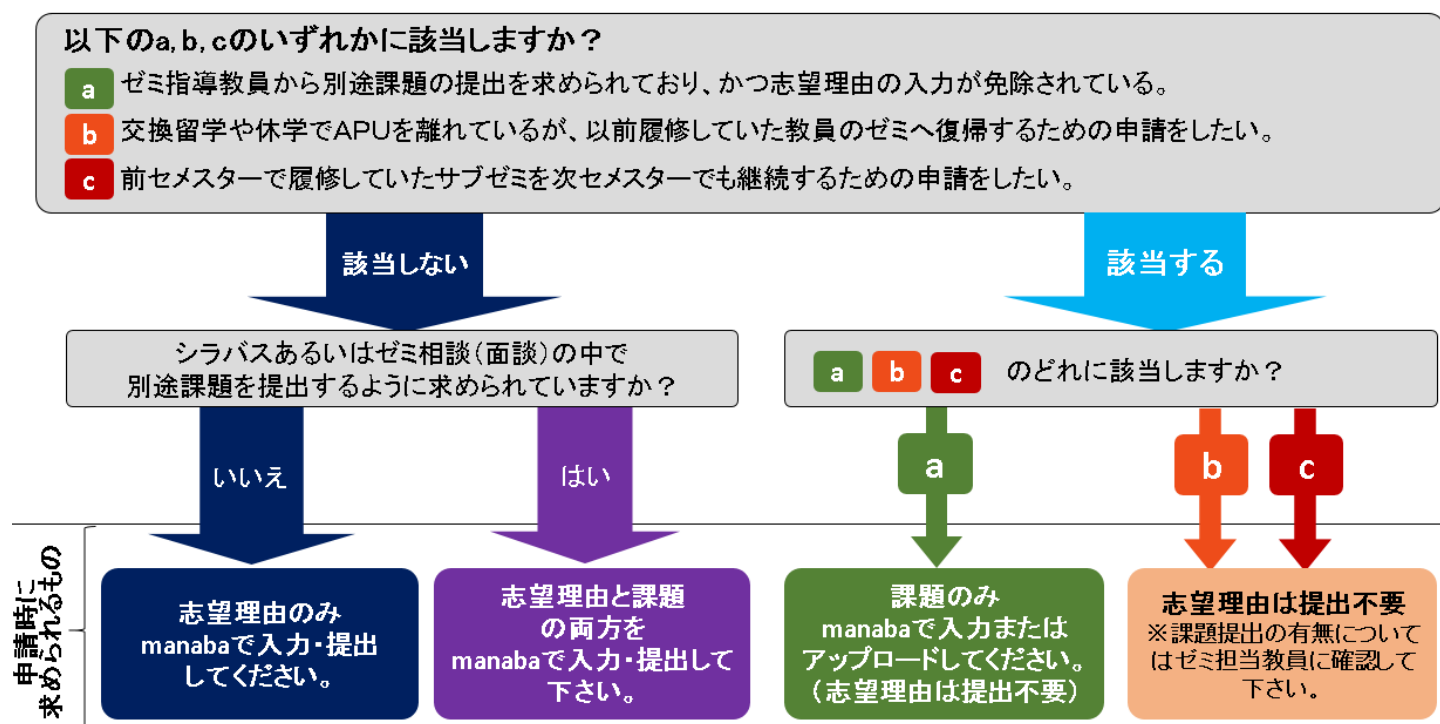
修正期間1および修正期間2でキャンセルすることはできません。また、「卒業研究」から「卒業論文」、または、「卒業研究I」から「卒業研究II」へ進む際に指導教員を変更することはできません。「卒業論文」または、「卒業研究II」は履修登録A期間、B期間または修正期間1のみ、Campusmate上の履修登録画面からキャンセル出来ます。また、「卒業論文」、または、「卒業研究II」キャンセルした次のセメスターにも在籍する場合、再度「卒業論文」または、「卒業研究II」が自動で登録されます。

5. 申請手順

以下の手順に従って申請して下さい。

手順	内容	日時・期間
1	アカデミック・オフィスウェブサイトの「 3・4回生演習 」のページで応募可能なゼミクラスを確認 ※メインゼミは第2希望まで申請可能です	10/30～
2	シラバスを読み、履修を希望するゼミについて研究 ※指導教員との面談日時、場所および方法に関する情報が記載されていますので必ず確認して下さい。 ※志望理由や課題についての情報が記載されている場合がありますので、必ず確認して下さい。	
3	指導教員との面談を実施	10/31～ 12/3
4	下記「5. manaba での志望理由／課題提出」に向けて提出準備を進める。 ※志望理由または課題に対する回答を manaba に直接入力できる期間は 12/4～12/18 の間です。 それまでの間は、各自でワードファイルやテキストファイルなどを使って準備を進めてください。 ※志望理由や課題提出の必要の有無については下図1で確認して下さい。	
5	manaba で志望理由・課題を入力・提出する。 ※入力・提出方法については、「 3・4回生演習 」のページで確認して下さい。	12/4～18

図1 志望理由(エッセイ)または課題提出の有無の確認方法



¶留学中、休学中の学生は・・・

留学・休学から復帰後にゼミの履修を希望する場合も、必ず上記スケジュールおよび手順に従って新規申請して下さい。ただし手順3については、直接面談を受けることが難しいため、メールや Skype[®]などを利用して履修相談を受けてください。詳細はアカデミック・オフィスウェブサイトの「3・4回生演習」のページを参照してください。

¶交換留学を希望している学生は・・・

交換留学とゼミを同時に並行することは出来ません。いずれか一方を選んでください。次セメスターから交換留学へ行くことを希望しているが、仮に希望が叶わなかった場合にゼミを履修しようと考えている学生は、上記スケジュールおよび手順に従って申請を行ってください。なお、ゼミへの申請後に交換留学派遣の内定が得られた場合は、直ちにアカデミック・オフィスへ演習受講取り消しの申請を行ってください。詳細は[アカデミック・オフィスウェブサイトの「3・4回生演習」のページ](#)を参照してください。

¶転籍を予定している学生は・・・

転籍後の学部で開講されるゼミへ申請することが出来ます。スケジュールおよび申請手順は上記と同じですが、申請期間に、必ずアカデミック・オフィスに相談してください。なお、同申請期間は、転籍手続きよりも前に設定されていますので、転籍が許可されなかった場合に備え、現在所属している学部のゼミへも同時に申請しておくことを薦めます。詳細は[アカデミック・オフィスウェブサイトの「3・4回生演習」のページ](#)を参照してください。

¶早期卒業プログラムの学生は・・・

上記スケジュールおよび手順に従って申請してください。なお、同プログラムの学生は、3回生・4回生演習科目の履修時期が通常学生と異なりますので、上記②の事前面談時に教員とよく相談し、十分な履修計画を立てた上で申請を行ってください。履修時期等の詳細は、学部履修ハンドブック(P163、P167)および[アカデミック・オフィスウェブサイトの「3・4回生演習」のページ](#)を参照してください。